

「はさかけのある風景 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

これだけの稲穂が干してありながら、スズメの姿がまったく見られないのを不思議に思ったが、その答えの一つが、読者の方の一人からのメールでわかった。

「近所のはさかけには鳥よけの糸が張られています。鳥は糸に羽が当たると近づかなくなるとか。」

なるほど、現地ではあまり時間がなくて気づかなかった。撮った写真を拡大してみると、確かに細い水糸のようなものが横に、斜めに張られている。そういえば、マンションのベランダ手摺にも、10 cm ぐらいの高さに横糸を張っておくと、ハトが来なくなる。



米農家の方にとっても、半年間一生懸命に世話をしてきたお米を、最後の最後に横取りされたのではたまらない。最低限の防除策は施してあるのだ。それでも雀の被害を 100% 防止するのは無理だろう。



もう一つ、面白いと思ったことがある。収穫が終わってしばらくたって、はさかけの稲穂の色が濃くなったころの地面には、緑の細い草がたくさん生えているのだ。水が張ってあれば、田植え直後の水田のようだ。これは雑草ではなく、実は収穫後に生きていた根から再び生えた、イネの芽 (二番穂) である。



これは「ひつじ」と呼ばれている。漢字では「稻孫」とか、「糶」と書き、秋の季語にもなっている。樹木でいえば、切り株や倒木から生える芽 (蘗=ひこばえ) である。イネでも「ひこばえ」と呼ぶ地方もある。



それにしても、日本の山里らしい風景だ。こんな風景を何としても残しておきたい。一度こういう場所を、遠足で子どもたちと歩いてみたいとも思った。